



「誠実に歩もう！」（要旨）
 箴言28章6節, 18節 説教者 原田憲夫
 説教後賛美：21讃美歌 507番
 今週の聖句：詩篇37-3

序
 今日の箴言一神の知恵は、「誠実に歩む」ことを勧める。

「誠実」とは、「裏表がない、純真な心」ということだが、ここで注意したいのは、「曲がった道を歩む者」と対比して語っていることである。つまり「誠実」とは、「真っ直ぐな生き方ー救いの道」であるが、「曲がった生き方ー不誠実なー二重生活」は、一時的には富んでいて、また栄えているように見えても、その先にあるのは「破滅」「滅び」なのだと警告していることである。

しかもこの勧めは一部の特別な人に向けてられているのではない。ごく普通の私たちー今日の私やあなたに対して語られているのである。

■「貧しくて、誠実に・・・」

5,000人の人々の空腹を満たした奇蹟を覚えているだろう。この時、主イエスが弟子ピリポに「どこからパンを買って来て、この人たちに食べさせようか。」(Jn14-5)と尋ねたのは、彼を「試すため」(6)、つまり、弟子たちを「訓練するため」だったことは・・・。

弟子たちは主イエスの考えがわからず、無理難題としてしか受け止められなかった。

ところが、そんな弟子たちー大人の計算など知らない貧しい少年は、自分の食べる分だった「五つのパンと二匹の魚」をキリストに差し出した。

しかし弟子たちは「これでは何になるだろうか」と諦めた。その直後だった。主イエスが「奇蹟」を起こしたのだ！

さらに人々が十分食べた時、「一つも無駄にしないように」と「余ったパン切れ」

を弟子たちに集めさせると、弟子の数、十二のかごが一杯になった。この「一つも無駄にならないように」は、39節の「一人も失うことなく」につながっている。

すなわち、主イエスはこの奇蹟を通して、ご自身を「いのちのパン」として分け与える「十字架の奇蹟」を前もって現したのである。

→キリストを「いのちのパン/真の糧」と心に迎える人々は滅びることがない。

主イエスはこの「救いのみわざ」を、「少年の一途な、純真な心」を通して明らかにされたのである。

●今日の箴言一神の知恵が勧める「誠実に歩む」とは、この少年のように「真っ直ぐな、純真な心」を、救い主キリストにささげて生きることである。

そしてその「誠実さ」を、日常生活のただ中で、すなわち隣り人の間で実践することを勧めているのである。

▷詩篇37-3

主に信頼し、善を行え。
 地に住み、誠実を養え。

▷箴言28-18

誠実に歩む者は救われ、
 その道が曲がっている者は直ちに倒れる。

さあ、「真っ直ぐな、一途な、純真な心」を救い主キリストに向け、キリストの後について真っ直ぐなー救いの道を歩もう！ Ω

(祈り)